

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こみち
教育の小径

No.169

2022 November

11月号



(一財)総合初等教育研究所 参与

北 俊夫 先生



今月のことば

がいこう じれい
外交辞令

相手に好ましい印象をもたせる外交上、社交上の対応の言葉から転じて、口先だけの愛想のよい誉め言葉やお世辞のことをいいます。

観点「思考・判断・表現」の評価

- 指導要録に示されている評価の観点「思考・判断・表現」の趣旨は、子どもに思考力、判断力、表現力などの能力が育まれているかどうかを評価するものです。
- 評価に当たっては、単元や題材で育む思考力、判断力、表現力等を具体的に検討し、それらの能力を育む指導と一体を考えます。

11月

今月の記念日

9日

換気の日

日本電機工業会が室内の換気に関心をもってもらうと、昭和62年(1987年)に制定しました。「いい(11)くう(9)き」(いい空気)の語呂合わせです。

観点「思考・判断・表現」の趣旨

中央教育審議会が平成31年1月にとりまとめた「児童生徒の学習評価の在り方について」の報告によると、各教科に設定されている評価の観点「思考・判断・表現」について、その趣旨が次のように示されています。

「『思考・判断・表現』の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものである。」

本観点は、思考する、判断する、表現するといった学習活動の様態を評価するだけでなく、これらの諸能力の育ち具合を評価するものです。

単元や題材ごとに設定する「思考・判断・表現」の評価規準は、当該教科や学年の目標に示されている思考力、判断力、表現力などの内容を踏まえ、単元等の学習活動や子どもの発達段階を考慮して具体的に設定します。

観点「思考・判断・表現」の評価方法を考える際には、まず思考力、判断力、表現力等の能力を育むための指導方法を工夫します。具体的には、この単元等でどのような思考力、判断力、表現力等を、どのように育むのかを明確にすることです。指導と評価は一体

ですから、指導方法を明確にすることで評価方法が明らかになります。

思考力といっても、概念が大きすぎて、その中身を具体的に捉えることができません。思考力には、例えば、複数の事象を比べて違いと共通点を見つける力、比較することで問題や疑問を見いだす力や新たな事実を見つける力、観点を設定して分類・整理する力、具体的な事実をもとに概念化する力、概念を具体化する力などがあります。思考力の中身を具体的に考えると、評価の対象が明確になってきます。

判断力や表現力についても、単元や題材ごとにその中身を具体的に考えることなく、評価しようとしてきたことに課題があります。

長期的な視点に立って評価する

長期的な視点に立って評価するとは1単位時間など短時間で評定しないということです。文部科学省が平成31年3月に発出した「児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」の通知によると、学習評価について「日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導に生かすことに重点を置くことが重要である」としています。これは、毎時間子どもの学習状況

を観点別に評定し、記録に残すことを意識しすぎた取り組みに対して警鐘を鳴らしているものです。

先の「報告」や「通知」では「思考・判断・表現」の観点の記録(評定)について、「原則として単元や題材等のまとまりごとに」行うと、長期的な視点に立って評価することを求めています。思考力、判断力、表現力などの能力は知識や技能と違って、短時間では育まれません。このことはこれらの能力が短時間の指導で評価することができないことを意味しています。ここでいう評価とは評定のことです。「思考・判断・表現」の観点は時間をかけて育み、長い目で評定します。

学力調査の結果から、わが国の子どもは知識や技能を活用して問題を解決する能力が十分に育っていないことが明らかになっています。「思考・判断・表現」の観点の評価は長期的な視点に立って、時間を十分かけて指導し評価することが求められます。

「通知」は、子どもの学習状況を評価することにより、その結果を教師の指導だけでなく、子どもの学習の改善に生かすことも求めています。「思考・判断・表現」の評価は、指導の時間をじっくりかけ、思考力、判断力、表現力等の能力を育む教師の指導や子どもの学習と一体を考え実施します。



リアクションとは何か

ここでいうリアクションとは、子どもの発言に対する教師の言葉による助言のことです。

授業を観察していると、子どもたちが活発に発言しているのですが、授業者は子どもの発言をただ聞き流しているだけで、発言を受けとめた適切なリアクション（反応）が見られません。言わせればなしになっているのです。子どもたちの発言を価値づけたり意義づけたり、さらに方向づけることがほとんど行われていません。そのため、学びに深まりが見られず、子どもたちは学びの成果を確認できていません。教師には、子どもたちの発言を生かし、子どもの思考や理解を深める手だてが求められます。

子どもの発言に対して効果的なリアクションをするとは、授業者が子どもの発言を受けとめ、真意を理解するとともに、その生かし方や対処の仕方を瞬時に考え、助言の言葉を発することです。これにより、子どもは思考がうながされ、理解を深めていきます。

ここでは、子どもの発言の理解と判断（評価）と指導・助言が一体に行われます。これは指導と評価が一体化されていることであり、評価が指導に生かされている姿です。こうした展開はPDCAの「CA」に当たります。

本欄では、授業での子どもの具体的な発言を取り上げ、授業者はどのように受けとめ、リアクションしたらよいのかを具体的に考えていきます。



教育の動向

子供読書活動推進計画の策定率

文部科学省は、各自治体における子ども読書活動推進計画の策定状況を取りまとめました。これは、平成13年に成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律」にもとづくものです。国が策定した第4次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（平成30年度～令和4年度）では、令和4年度までの目標値を、市が100%、町村が70%としています。

市における策定状況は93.9%です。平成30年度末から1.5%増加しましたが、目標値に達してはいません。町村においては74.4%で、

平成30年度末から4.7%増加しました。町村においては令和元年度に70%の目標を達成済です。なお、都道府県の策定状況は、平成18年度末までにすべての自治体が策定済です。

都道府県ごとに市町村の策定状況を見ると、全国平均が83.5%です。ただ、都道府県によってばらつきが見られます。秋田県、福島県、栃木県、富山県、岐阜県、滋賀県、岡山県、徳島県、福岡県、熊本県、大分県、鹿児島県の12県が100%の策定率になっています。一方、50%に満たない県もあります。

文部科学省によると、策定が進んだ自治体は、都道府県教育委員会がほかの市町村の情報を提供するなど支援や助言がなされているとしています。

北俊夫の「実践と研究」の足あと 37

多様な教育課題に挑戦

研究の対象は社会科にとどまらず、さまざまな教育課題に広がりました。そのひとつに教科横断的な教育課題があります。関心をもつようになった背景には「総合的な学習の時間」の創設がありました。取り上げる教科横断的な社会課題が例示されたからです。

環境教育や国際理解教育、情報教育をはじめ、食育、消費者教育、金融・金銭教育、伝統文化教育、エネルギー教育、キャリア教育、防災教育、持続発展教育（ESD）などに広がってきました。将来の社会の形成者として必要な資質・能力を養うためには、教科の学力形成だけではおのずと限界があることに気づいたからです。

学習指導要領改訂に伴って提起された授業課題にも挑戦するようになり

ました。それらは習熟度別学習に代表される個に応じた指導、言語能力の育成を目指す言語活動の充実、体験活動の重視、学力向上を図る授業など指導方法にかかわる課題です。近年では「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりや「ものの見方・考え方」を働かせた授業づくりがあります。

学習評価、学校評価、授業評価、教員評価といったさまざまな評価の課題にも関心をもつようになり、研究の対象がさらに広がっていきました。

新しい学力観に立つ教育が提唱された平成4年ごろから、社会科の授業で知識がきちんと指導されていないことに不安を感じていました。子どもの実態を把握するために、総合初等教育研究所の依頼を受けて、平成19年度に「社会についての基礎的知識の習得に関する調査」を実施しました。

INFORMATION

教科別しあげ教材



1年間の学習を教科ごと、1冊でまとめて復習!

同じ問題にくり返しチャレンジ!

5年へGO! は教科ごと(国・算・理・社)に「GO!ノート」つき

編集後記

「教育の小径」のすべてのバックナンバーを文溪堂のHPからお読みいただけます。ダウンロードして印刷も可能です。お知り合いの先生にもお勧めください。(Y記)



ibunkei 教育の小径 検索



企画・編集：ibunkei 教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2022年11月1日